親子向けイベントのおしらせ

☻おはなし会スペシャル☻

スタッフやボランティアのみなさんによる、いつもとはひとあじ違うスペシャルなおはなし会を行います。

【朝日分館】
日時：10月16日(金)　午前10時30分～11時
場所：燦燦朝日館2階　生涯学習室
協力：ボランティア「絵本ばたけ」さん

【久々野分館】
日時：10月22日(木)
　　午前10時30分～11時
場所：久々野多目的センター
　　虹流館くぐの「なかよしランド」



【一之宮分館】
日時：12月5日(土)　午前10時30分～11時
場所：飛騨位山文化交流館　研修室
協力：ボランティア「お話玉手箱」さん

ブックスタート

各分館で1歳6か月児対象のブックスタート絵本の引き換えと、おはなし会を行います。
絵本の引き換えには、高山市から配布された「引換券」と「母子手帳」が必要です。おはなし会はどなたでも参加できます。

【朝日分館】
日時：10月25日(日)　10時30分～11時
場所：朝日分館

【久々野分館】
日時：11月5日(木)　10時30分～11時
場所：久々野多目的センター
　　虹流館くぐの「なかよしランド」

イベントはすべて参加無料・申込不要です。くわしくは各分館内のポスター・チラシをごらんください。



【分館の基本情報】

高山市図書館　一之宮分館
飛騨位山文化交流館内　☎ 0577-53-0035
・開館時間　火～土　午前9時～午後9時
　　日祝　午前9時～午後5時
・スタッフ滞在時間　平日　午後1時～午後5時
　　土日　午前10時～午後5時

高山市図書館　久々野分館
久々野公民館1階　☎ 0577-52-3112
・開館時間　午前9時30分～午後9時30分
・スタッフ滞在時間　平日　午後1時～午後5時
　　土日　午前10時～午後5時

高山市図書館　朝日分館
燦燦(さんさん)朝日館2階　☎ 0577-55-3311
・開館時間　午前9時30分～午後9時30分
・スタッフ滞在時間　午後1時～午後5時

高山市図書館　高根分館
高根多目的センター内　☎ 0577-59-2211
・開館時間　午前9時30分～午後9時30分
・スタッフ滞在時間　金曜日　午後1時～午後3時

図書館HP
休館日はこちらから
ご確認ください。

携帯電話のバーコードリーダー機能を利用して二次元コードを読み込むと、高山市図書館のホームページやSNSにアクセスできます。
※機種によっては正しく表示されない場合があります。
ご了承ください。

X　Instagram　Facebook　YouTube

高山市図書館
分館だより 秋
一之宮・久々野・朝日・高根

発行日　2026年10月1日
発行元　高山市図書館
　　指定管理者　株式会社図書館流通センター

世代別特集

11月はさまざまな世代を対象にした「世代別特集」を行います。
その他の特集はSNSにて毎月紹介しています。ぜひチェックしてください☺

一之宮分館◆Z世代
私らしく働く、生きる



久々野分館◆子育て世代
子育てに関するお悩み、一緒に考えませんか



朝日分館◆シニア世代
健康寿命を考える



高根分館◆シニア世代
セカンドライフを楽しむ



高山市図書館は煥章館と分館がネットワークでつながっています。利用カードを共通して使えます。

イベントのおしらせ

分館フェア
展示「昭和100年」

期間：10月1日(木)～31日(土)

秋の図書館は展示・イベントがもりだくさん！

分館では「**昭和100年**」の展示を行います。当時の暮らしやできごとを、さまざまな視点から展示・特集します。

【朝日・高根分館】

テーマ：こどものくらし
あそぶこと・たべること

激動の昭和時代の遊びや娯楽、おやつの移り変わりを通して、こどもたちのくらしを見つめます。



【久々野分館】

テーマ：飛騨のスキー史

久々野の舟山高原スキー場(旧アルコピアスキー場)を中心に飛騨地域のスキー場や、スキーに関する出来事を紹介します。



【一之宮分館】

テーマ：五輪の輪、
百年の夢

昭和100年を迎えた今、聖火の軌跡から日本の歩みを紐解きます。



♻不用雑誌・図書リサイクル♻

保存期間の過ぎた雑誌、不用となった図書を無料提供します。資料がなくなり次第終了します。

場所：各分館
時間：午前10時～



【朝日分館】
日にち：10月10日(土)・11日(日)

【久々野分館】
日にち：11月14日(土)・15日(日)

【一之宮分館・高根分館】
日にち：12月12日(土)・13日(日)

☺イベントはすべて入場無料・申込不要です。
くわしくは各分館内のポスター・チラシをごらんください。

分館へようこそ

前号では、久々野町にある堂之上(どうのそら)遺跡について紹介しました。今号は、石囲炉を発見した一人である谷口和人さんに当時の思い出をご寄稿いただきました。

※前号はこちらからごらんください

堂之上遺跡　発見の日の物語

谷口和人

昭和47（1972）年の初冬

うっすらと雪化粧した畑から顔を出していた縄文土器が、私達の目を引いた。

私達、久々野中学校郷土研究クラブ員はクラブになると堂之上の畑での石器や土器採集に没頭していた。この畑は町有地で中学校が一部利用しており、私達の「研究」の場にもなっていたのだが、その日発見した土器はいつもとは違っていた。土器の大半が土に埋まっており、全容が分からない。途方もない発見ではないかと心が躍った。仲間と鍬やスコップでこのお宝の土器を傷つけないように掘り出そうと周りを掘っていった。「ガツッ！」

スコップが大きな石にあたり、その石が土器掘りの邪魔をした。最初はこの石がどんな重要な意味をもっているかもわからず、土器を掘り出すために、かじかむ手で必死に石の廻りを掘った。この邪魔な石は平らで立っており、縦に伸びていた。頭を全部出すと最初の石の端にくっつくように二つ目の邪魔な石が顔を出した。今度の石は横に長く伸びていた。三つ目の石が顔を出した時、それはもう邪魔な石ではなくなっていた。そして四つ目の石が顔を出した時、これこそ縄文時代の「炉」であることは、さすがの私達にもはっきりとわかった。「炉」の中には炭や焼けた土器が、数千年も前に人の生活がそこにあったことを物語っていた。心が震えた。

「とんでもない発見だ！」と心を躍らせ、私達は職員室に走った。13歳の初冬の出来事である。今は国指定の史跡となっている堂之上遺跡を発見した一コマである。遺跡に出会った「感動」は、50年以上たった今でも決して忘れることのない心の景色となっている。

そう言えば・・・あのお宝土器はどうなったのだろう？今は全く思い出せない。



写真提供：久々野歴史民俗資料館